

2026年 年頭にあたつて

日本退職教職員協議会 会長 平岡良久



平岡良久

昨年10月21日、高市政権が発足しました。日本で初めての女性首相の誕生で喜ばしいことですが、最も望まない首相の出現でした。案に相違なく、所信表明で防衛費の対GDP比2%の前倒し、安保関連3文書の改定などに言及しています。

2025年の参議院選挙では、全国の仲間の奮闘があり、水岡俊一さんが見事当選を果たしました。同選挙では自民党への裏金・脱税批判により、2024年の衆議院選挙に続き自公政権は少数になりました。

高市首相は、裏金問題を克服できず、公明党に離反され、日本維新の会を政権に加えました。新たな政権は、「政治とカネ」改革課題、企業・団

体献金の扱いを先送りし、衆議院議員定数削減を政権合意文書に示すことで一致しました。

物価の上昇率は、2020年を100とするとき今は110を大幅にこえる物価高に見舞われています。1ドルが155円を超える円安のためもあり、年金生活者の生活はますます苦しくなっています。

また、軍事費予算の倍増、「年収の壁」を103万円から178万円に引き上げるための「財源確保」に社会保障制度の見直し、とりわけ高齢者の「医療費」負担の見直し（基本3割負担）が検討されようとしています。高市首相は、「台湾有事」に触れて、「存立危機事態」になり得るケースを述べていて、極めて不穏な発言をしています。安倍政権以降の「軍事偏重」「対米追従」路線の延長を許さず、平和で暮らしやすい国づくりをめざし、がんばりましょう。

日本
退職
教職員
協議会

No. 422

2026.1

日本退職教職員協議会
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋二一六一一 日本教育会館6F
発行責任者 平岡 良久
TEL 03(5275)2197・FAX 03(5275)2081
Email nittaikyo@gmail.com ホームページURL http://www.nittaikyo.com

コロナを越えて、50周年記念企画中国研修旅行開催される —無謀な日中戦争・重慶空襲85年へ (10月20日～24日)

ハイライトは
四川外国语大学での交流
参加者・望月信光

中国の人々の活気と街の賑わいに圧倒され放しの4泊5日でしたが、とても楽しく、また刺激がいっぱいの記憶に残る旅となりました。これも添乗の沈雪軍さん、現地ガイド・成都の張小素さん、重慶の漆曉笛さん、そして、企画・コーディネートにご尽力いただいた尾崎明子さんのおかげと感謝。平岡会長もお疲れ様でした。持ち帰った感想や印象深い出来事は山ほどですが、いくつかピックアップ。まず三国志の英雄を祀った武候祠での張さんの解説が、熱量と知識量でハンパじゃなかつた。蜀の都だった成都に暮らす人たちが、どれほど三国志を愛し、誇りに思っているか、びびびしと伝わる語り口と内容でした。武候祠は再訪ですが、さらりと回っただけの前回の薄めの印象は一変、ガイドの力はさすがだと思いました。そうそう、武候祠見学を終えた後、



四川外国语大学での交流

入り口前で集合待ちをしていたら、直ぐ横で子連れの若夫婦が喧嘩を始めたのです。喧嘩といつても大声でなじりまくっているのは女性の方で夫らしき男性はサンドバック状態。30分も続いていたのでしょうか。わざわざ、こんな公衆の面前でやらずともと思ったのですが、帰国後、中国の通り合いにその話をしたら、自分の正しさを周囲に向かって声高にアピールするのは中国ではふつうにあることとか。そんなものかと妙に納得。

30分も続いていたでしょ？かわさ
わざ、こんな公衆の面前でやらずと
もと思ったのですが、帰国後、中国
通の知り合いにその話をしたら、自
分の正しさを周囲に向かって声高に
アピールするのは中国ではふつうに
あることとか。そんなものかと妙に
納得。

味に臨んだ場でしたか。それを察してか岳さんは、しつかりした日本語を駆使した積極的な話題づくりで対話をリード。時に筆談も交えながら（やはり漢字は便利）互いの関心や近況のやりとりで交流は思いのほか盛り上がり、気がつけば「そろそろ終了」を告げる司会の方の声。とりわけ感心したのは、岳さんが将来の目標をきちんと見定め、その実現にむけた準備を着実に進めていること。行き当りばつたりで過ごした私の学 生時代とは大違います。

四川の料理はみんな感動的に美味しかった。ごちそうさまでし。

汗が噴き出す本場のマーボー



汗が噴き出す本場のマーボー

重慶無差別爆撃被害者の証言

参加者・神奈川高シニア藤島政彦

重慶無差別爆撃被害者の証言

訪問箇所から、メインの重慶での爆撃被害者の証言の聞き取りの部分の感想を書くことにします。尚、今回事前に「日中戦争前史 上下」「重慶爆撃訴訟の経過や被害者の証言も出ていてとても参考になりました。4日目4人の爆撃被害者にお越しいただき証言を聞きました。最後に証言された女性は爆撃で両親が殺され、本人も頭部に弾片が残り後遺症に今でも悩まされている方でした。女性は過去の辛い体験をからか証言の途中気持ちが高ぶり、通訳がしにくい状態になりました。ただそうなったのは我々が非戦と日中交流の意思を持った集団であつて、かつてここ重慶で無辜の民を殺戮し、その罪の償いも謝罪もしないままできた日本（人）の顔をした集団であつた。尚、今回証言された元重慶爆撃訴訟原告団長の栗さんは、11月沖縄に招かれ、証言集会の後読谷の彫刻家金城実さんの「重慶爆撃」のレリー製作に参加されその完成を見届けられました。私も2年前に金城さんのアトリエを訪問したことがあります。是非、来年10月予定されるい渡嘉敷島の軍隊「慰安」婦追悼式参加の途中、再度訪問したいと思つ

ています

ゲルニカの無差別攻撃に對しては、1997年ドイツ大統領が謝罪をし、町として正式に受け入れました。一方最近取り消しを求める声も出て話題になりましたが、東京大空襲の司令官カーチス・ルメイには勲章を贈った日本、それはアジアを蔑ろにしながらアメリカに隸属する歪んだ構造が連綿と続いていることの象徴かと思います。

日中共同声明を逸脱した高市総理の国会答弁以降、日中関係は険悪化していますが、こういう状況だからこそ添乗頂いた沈さんの言葉、「普通の人と人との交流で憎しみや偏見を取り除く」ためにも東アジア研修旅行をできるだけ長く続けてほしいと思っています。今回ご一緒した皆さん、ありがとうございました。私も微力ながら歪んだ構造を変えていくために頑張りたいと思っています。



望む重慶市街

問題多い3号被保険者制度 ～ジェンダー平等学習会開催される

(2025年11月27日)



四川外国语大学絵の交流

学習会にあたって、各ブロックか
らの意見交換

報告・都高退教 佐伯典子

最初に平岡日退教長の挨拶の後、
藤本事務局長より組織現況報告があ

りました。「現会員数は約3万
7000人、60単会中女性会員は約

1万4000人。女性会長は5名、
事務局長は10名でした」とあり、ア

ンケートをとる中であがつた各県の
様子や要望も報告されました。また、
委員会からは昨年度の取り組み「第

6次男女共同参画基本計画に対する
パブリックコメント」「女性差別撤廃
条約選択議定書の地方議会における
『意見書』採択状況」、退職者連合で
行つた、内閣特命担当大臣への要請」
などが紹介されました。

全国からは7つのブロックで参加
がありました。「ジェンダー平等学習
会を毎年開いている。自分自身のジェ
ンダーバイアスに気づかれる（北
海道）」「毎年、毎月の学習会を行つ
ている（沖縄）」「退職者連合の方針
などの紹介されました。

にジェンダー平等が入ったのは大き
い（兵庫）という報告がありました。
「個人的なことだが、パートナーと
互いに『主人』『家内』というのはや
めようと話し合つたが、親とのギャツ
プが大きかった」との報告もありま
した。

にジェンダー平等が入ったのは大き
い（兵庫）という報告がありました。
「個人的なことだが、パートナーと
互いに『主人』『家内』というのはや
めようと話し合つたが、親とのギャツ
プが大きかった」との報告もありま
した。

学習会では、ジェンダーの視点か ら第3号被保険者問題が

報告・千葉高退教 長澤淑夫



講師 永瀬伸子
(大妻女子大学教授、お茶の水大
学名譽教授)

講師 永瀬伸子
(大妻女子大学教授、お茶の水大
学名譽教授)

がそれを担うことを前提とした働き
方です。妻への年金支給条件は、年
収を100万程度に抑え、夫の扶養
となることです。つまり男性が働き、
妻が低収入でいることを奨励する制
度となっています。

がそれを担うことを前提とした働き
方です。妻への年金支給条件は、年
収を100万程度に抑え、夫の扶養
となることです。つまり男性が働き、
妻が低収入でいることを奨励する制
度となっています。

構造ゆえに第3号被保険者の場合と
ほとんど年金は変わりません。この
先、人口減少が続き、労働力不足が
深刻化する日本では、結婚、出産後
も女性が正規職に就くことが求めら
れていますが、その障害が第三号被
保険者制度です。

男女平等のため、第三号被保険者
制度を廃止し、中年期雇用における
正規雇用を進めることが肝要ですし、
これがシングル非正規の賃金を低く
抑える機能を持つとともに、他方、
昨今政府が進めるパートの年金制度
加入とも矛盾します。企業側でも社
会保険料負担を避けるため、負担の
ない労働時間、年収で雇用する誘因
ともなっています。もし女性が第2
号となり働いたとしても遺族年金の
免除がなされるべきです。

豊富なデータをグラフと表で示し
た説得力ある内容を、自身の経験と、
時に笑いを誘うエピソードを交えて、
2時間あまりの講演でした。

県民合意なく進む、 辺野古埋め立て

(第14次沖縄交流団報告・12月1日～2日)

辺野古新基地はいらない！

私たち反対しつづける

報告・大分高退教 栗林裕之

一日目は早速、辺野古の学習会か
ら始まりました。演題は「辺野古の
軟弱地盤・海砂問題」。講師の奥間政
則さんは建設工事を専門とする技術
者で、これまでにも海中に数十メー
トルの橋脚を打ち込んだことがある
プロフェッショナルの方。長い経験

がそれを担うことを前提とした働き
方です。妻への年金支給条件は、年
収を100万程度に抑え、夫の扶養
となることです。つまり男性が働き、
妻が低収入でいることを奨励する制
度となっています。

がそれを担うことを前提とした働き
方です。妻への年金支給条件は、年
収を100万程度に抑え、夫の扶養
となることです。つまり男性が働き、
妻が低収入でいることを奨励する制
度となっています。

を実感しました。

学習会から始まる

やはり暑い沖縄

12月に入り、九州でも朝晩はストー
ブを点け、ジャンパーを着てます

ら始まりました。演題は「辺野古の
軟弱地盤・海砂問題」。講師の奥間政
則さんは建設工事を専門とする技術
者で、これまでにも海中に数十メー
トルの橋脚を打ち込んだことがある
プロフェッショナルの方。長い経験

を持つ技術屋だからこそ分かるからこそ分かる。辺野古新基地建設の問題点をさまざまな角度から教えていただきました。現在建設が進められている新基地の講師の奥間政則さん

私たちの抗議行動もあり、工事は現在大幅に遅れています。私たちの運動がこの工事を阻止することにつながっている。粘り強く座り込み行動を続けて、国に新基地建設をあきらめさせなければならぬと痛感しました。



学習会で話をされた。現在建設が進められている新基地の講師の奥間政則さん

海底は非常に地盤が弱いため、約7万一千本の杭を打ち込んで基礎を固める計画としているが、辺野古の海底は、かなりの傾斜（約18度）がある。そのたまごの層に達するまでに90m以上もあり、非常な難工事である。さらに軟弱地盤が厚いため、震度2以下の地震でも多くの工区が崩壊する可能性が高い。また、砂で作った杭を使用するために膨大な量の海砂を採取しなければならず、海岸浸食をはじめ採取時の高濃度の濁り水の発生など海中の環境破壊が進行している。2017年に工事がはじまりすでに8年が過ぎているが、杭の設置は予定の71,000本に対して僅か3,000本足らず。基礎の工事さえいつ終わるかも全く不明な状況のこと。ドローンで撮った沢山の写真や海底状態のイラストなどを多用した私たち素人でも分かりやすい説明に、この新基地がいかに無意味で、莫大な無駄な予算（＝税金＝私たちのお金）が使われているかが分かり、改めて怒りがわいてきました。難工事であることに加え、



辺野古飛行場建設反対の抗議行動

私たちの抗議行動もあり、工事は現在大幅に遅れています。私たちの運動がこの工事を阻止することにつながっている。粘り強く座り込み行動を続けて、国に新基地建設をあきらめさせなければならぬと痛感しました。

現地抗議行動と連帯

二日目は辺野古での抗議行動。沖縄高退教役員の方々の運転とガイド付き。お弁当とおやつまで、何から何まで準備していただき本当にありがたい。沖縄県厅前から辺野古までは約60km。途中、嘉手納飛行場ゲート前の県道20号線、通称「ゲート通り」を案内していただいた。昔のコザ市、アメリカ兵相手の英語の看板の店が連なる通り、今でも戦後の沖縄の雰囲気が残っている。改めて沖縄の歴史と現状を感じさせられました。

那覇からバスで約1時間半。辺野古新基地反対テントに到着。すでに朝から仲間が集まり、それぞれの主張と怒りをマイクにぶつけている。「毎年参加して下さっている日退教の仲間の皆さんが到着されました」と歓迎を受けた。その後よいよキヤンブ・シユワブゲート前で抗議の座り込み行動へと移る。沖縄県警の屈強な警察官が居並ぶ



辺野古の闘いをする看板

叫び、シェープレビコールを上げ、連帯の歌を歌い、太鼓を打ち鳴らす。私たちの座り込みのため中に入れず、

どんどん長くなる資材搬入のトラックの列、「座り込みをやめてゲート前を開けてください」と県警のスピーカーが連呼する。それを無視して叫び、歌う。数回の警告の後、ついに強制排除。参加者は警察官二人三人がかりで抱えられて歩道に運ばれ「足から降ろしますよ」と声かけされる。あれ？意外と丁寧。

沖縄高退教の方の説明によると、沖縄県警は沖縄県民なので手荒なことはしないとのこと。全員が移動させられた後ゲートが開きトラックが次々と資材を運び込む光景に、いたたまれない気持ちになる。でも、参加者の「私たちがこうやって抗議活動を続けているから一日三回しか運び込めないんです」「私たちも負けない。だつて勝つまで反対しつづけるから」との話しに「微力だが無力ではない」という言葉を思いました。

◆編集後記◆

の敬意を表したい。あつという間の二日間でした。おかげで、沖縄県退教・高退教の皆様には本当に感謝いたしました。おかげで沖縄を身近に感じ、全国の仲間と連帯を深めた意義ある貴重な時間になりました。ありがとうございました。

参議院選挙における参政党の躍進、高市内閣の高支持率、これらは日本国憲法と非核三原則を守ることが当然という意識を共有化する我々世代には理解できない現象である。

1980年代中曾根内閣とともに広がった自由主義の流行が、理解できなかつた記憶がある。その時は、私が教えた高校生の世代の子供の世代が、現代の若い世代、Z世代である。

本年、非常勤講師として学校現場に行き、生徒・若い教職員のZ世代と触れ合う機会を多く持つた。彼らは、中国、朝鮮が嫌いである。それに付随するかたちで共産主義も嫌いである。彼らは、「科学的に○×は正しい」という言い方を嫌う。彼らの共有化する意識は参政党や高市首相に近いようである。ただ彼らも戦争を嫌つており、もちろん環境破壊は絶対に許せないようだ。このあたりで、我々は救いを求めていけそうである。